

複式第3・4学年 算数科学習指導案

西之表市立 立山小学校
指導者 室屋綾

1 題材 3年題材「かけ算のひっ算」、4年題材「1けたでわるわり算」

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

(3年)

(4年)

これまでに子ども達は、乗法については、第2学年で乗法九九を知り、(1位数)×(1位数)の計算を学習してきている。また、前単元「2かけ算」で乗数や被乗数が0, 10の乗法計算、乗数が1増減するとき、積は被乗数だけ増減するという積の変化の規則性、乗数と被乗数を入れ換えても答えは同じであるという乗法の交換法則、 40×3 や 300×5 のような何十・何百×1位数の乗法計算の仕方など、乗法九九に帰着して計算する乗法の暗算を学習してきている。

そこで、本単元では、それらの学習をもとにして、2, 3位数に1位数をかける乗法計算の仕方について理解し、それを用いる能力を伸ばそうとするものである。2, 3位数に1位数をかける乗法の筆算形式を導入し、その計算の原理や手順の理解を図ることになる。

指導にあたっては、数の構成や十進位取り記数法の原理の理解に基づき、位に注目して分配法則の考え方を取り入れながら行うこととする。さらに、乗法が用いられる意味を(1つ分の大きさ)×(いくつ分)ととらえ、その理解を深めたいと考える。この見方は将来的に乗数が小数や分数に発展していくときに重要な考え方なので、児童にしっかりと定着するように指導したい。

そのためには、筆算の原理が数の構成と十進位取り記数法に基づいていることを、式・筆算形式・図解を関連させる操作活動を行うことで、(基準とする大きさ=1つ分の大きさ)×(基準の大きさ)を単位とした数=いくつ分が全体量になることへの実感を深め、けた数が増えても同じ手続きでできるという数学的な考え方を養っていきたい。

かけ算の筆算のよさは、暗算による念頭処理が難しい場合、九九を用いて部分積を記録し加えていくことにより、思考の負担が軽減され、誤りが少なくなる点にある。また、分配法則の考えがそのまま筆算形式に生かされていることにより、かけ算の原理理解がより深められるということも、よさである。かけ算は日常生活で適用する機会が多い。計算が複雑になっても筆算で簡単に処理できるというよさを子ども達は感じ取り、日常生活で活用していくことができると考える。

本単元の学習は、次単元の「2けたのかけ算」の学習へと発展していくことになり、2位数・3位数×2位数・3位数の計算の基礎にあたるので、計算の原理や手順を確実に理解するとともに、技能的にも十分高めておく必要がある。

これまでに子ども達は、除法については、第3学年で、その意味と除数が1位数の場合について学習してきている。そこで、乗法九九の範囲内での(1・2位数)÷(1位数)=(1位数)で割り切れる場合と割り切れない場合を学習し、前単元「3わり算」では、乗法九九を1回適用してできる範囲で(1・2位数)÷(1位数)=(1位数)で割り切れない場合のわり算の意味と計算方法の理解を図り、余りも含めた確かめ、そして、(1・2位数)÷(1位数)=(1位数)でその筆算形式まで学習してきている。

筆算形式についても2位数を1位数でわることを通して、余りのあるわり算、除法・乗法の関係、立式、計算の確かめなども学習してきている。

そこで、本単元では、その発展として、(2位数)÷(1位数)=(2位数)の筆算形式、続いて、(3位数)÷(1位数)=(3・2位数)まで、筆算形式による計算の原理と手順を理解し、1位数でわる除法計算の完成を図ることをねらいとしている。

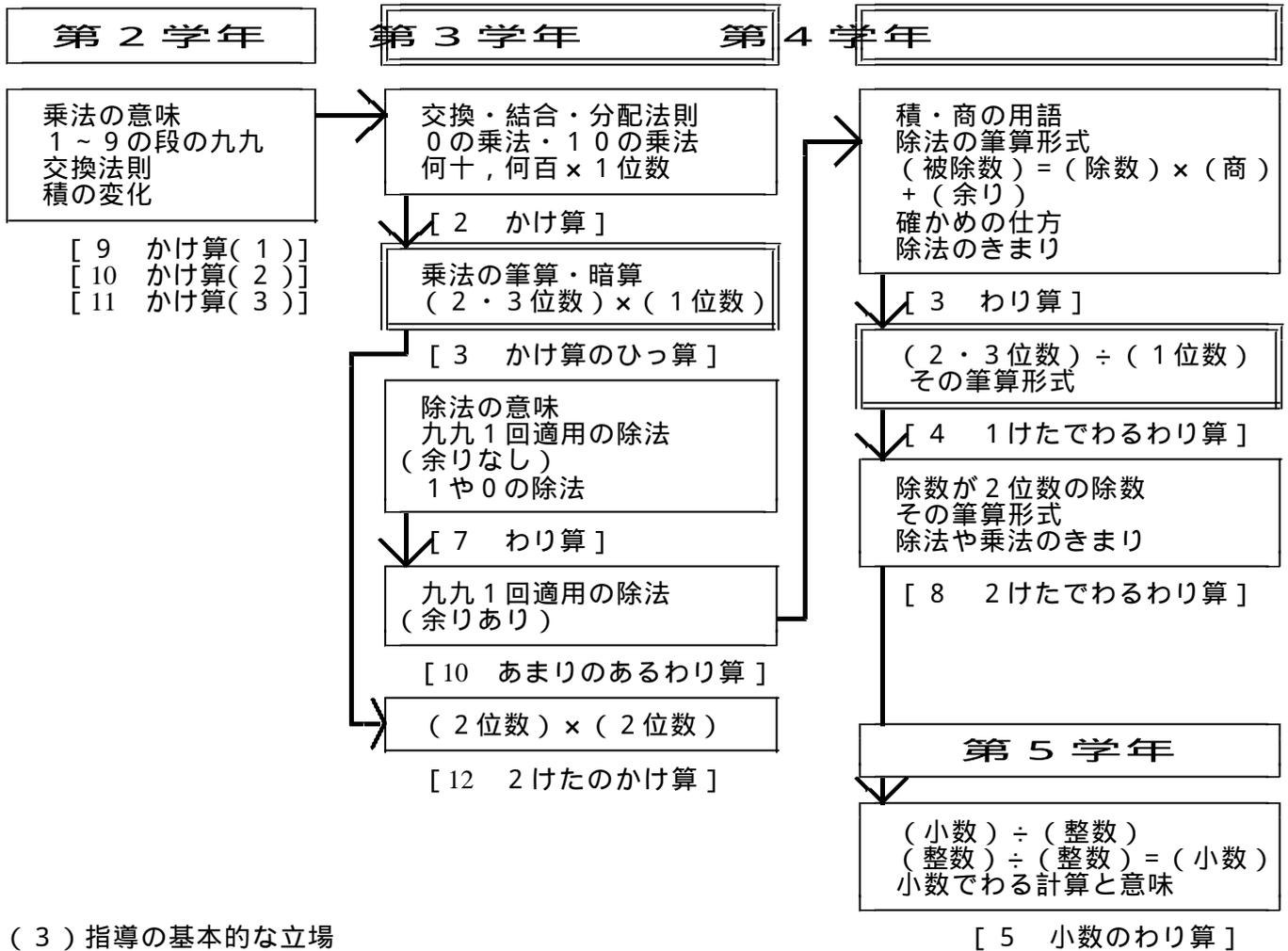
除法の筆算形式による計算では、<たてる><かける><ひく><おろす>という4つの操作を順々に繰り返し、次の位へとひきつぎ、これを繰り返すことにより答えを求める。この操作は、慣れてしまえば機械的にでき、決して困難ではないが、はじめて学ぶ児童にとっては、4段階で1節を完成するというしくみは、これまでになかった複雑さを感じると思われる。また、基準量の何倍かを求めたり、逆に基準量を求めるときにも除法が適用されることを理解させ、除法の意味の拡張を図っていく。

除法の筆算のよさは、暗算による念頭処理が難しい場合、上位でた余りを記録して次の位の被除数と合わせる点により、思考の負担が軽減され、誤りが少なくなる点にある。除法は日常生活で適用する機会が多い。計算が複雑になっても筆算で簡単に処理できるというよさを子ども達は感じ取り、日常生活で活用していくことができると考える。

このような学習を通して、除法についての理解がいつそう深まるとともに、身近な問題を数理的に処理する態度が身に付くものと考えられる。また、1単位時間の中で、見通しをもち、筋道だてて考えたり、説明しながら問題を解決したりしていく中で、既習の計算と関連付けて計算するなどの数理的な考えを伸ばすことができ、問題解決能力も高まるものと考えられる。

本単元の学習を通して培われた除法についての見方・考え方は、次単元の「2けたでわるわり算」の学習(2~5位数)÷(2~3位数)の計算と「商」の用語理解や除法の検算の仕方、末尾に0のある除法の計算、(整数・小数)÷(整数)の計算へと発展していくことになる。

(2) 関連事項



(3) 指導の基本的な立場

(3年)

本単元は、3つの小単元から構成されている。第1小単元では、乗法の計算による計算原理や手順を理解するのに最も適切な基本型の素材で導入する。分配法則の考えをその図解と対比させて、計算の原理を考えさせ、原理の理解に基づき筆算形式を導入し、計算方法を見出ししていくようにさせたい。次に、理解の徹底を図るため、2位数に1位数をかける計算の型を易から難へ配列し、段階的に能率的に練習効果を上げるようにしていきたい。

筆算の原理・手順の理解に重点を置き、位取り記数法や乗法九九の理解を基にして、子ども達の手で筆算形式を創造していくようにしたい。ここでは特に位取りに気を付け、部分積の数の大きさを明確にするように留意したい。

第2小単元では、乗法の意味の拡張と、3位数に1位数をかける計算を理解させる。乗法の意味をテープ図で示し(基準の大きさ)×(基準の大きさを単位とした数)=(全体の大きさ)の関係をとらえさせ、将来、小数倍、分数倍へと発展させる素地としている。3位数に1位数をかける計算の学習は、2位数に1位数をかける計算のとき準じて型を分類し、段階的に指導していく。最後に乗法の結合法則を取り上げるが、ここではあくまでも具体的な場面を背景にして、結合法則が成り立つことを理解するにとどめる。

第3小単元では、理解の程度により、個人差が出てくると思われるので、どこでつまづいているのかきちんと把握し、個に応じた支援をしていきたい。

(4年)

本単元は、4つの小単元から構成されている。第1小単元では、2位数を1位数でわって、十の位で割り切れない場合から導入する。色紙などの具体物を用いて、10まい束7つを3人で分け、次に残りの1束と2枚を3人で分ける操作を行うことにより、上位から計算を進めることの必要性和その手順を理解する。この操作を基にして、商を「立てる かける ひく おろす」という筆算形式の計算手順を理解する。そして、この4つの操作の繰り返しによる除法計算の手順を、3・4位数÷1位数へと発展させる。

第2小単元では、254枚の色紙を3人で等分することを問題とし、被除数の首位の数が除数より小さいときは、次の位まで取ってわり算をはじめるとを理解させ、その場合の筆算形式の手順を、3位数÷1位数の場合について取り扱う。また、商に空位のある場合について、手際のよい計算方法を理解する。

さらに、第3・第4小単元では、ある数がもとの数に何倍に当たるかを求めるには除法が適用されることが、未知数をとして乗法の式に表し、あたる数が除法で求められることを通して、除法が基準量を求める場合にも適用できること、除法の暗算では、除数を見て被除数を分解してとらえることから求められることを知る。

さらに、問題作りやゲーム、デジタルコンテンツ活用などを通して、乗法・除法についての定着を図りたい。学習の学び方としては、3年生では、めあてを解決するために自分なりの観点を選択し、解決に臨む場面において、また、4年生では特に、学習課題をもとに気付いたことを出し合い、その気付きから目当ての設定する場面において子ども達のガイド学習を設定する。また、終末の段階では、まとめたこととお互いに見合うことによって頑張り認め合うことができるようにする。

(4) 児童の実態

<意識面> (3・4年生 共通)

- 算数は好きですか。
- 複式の学習は楽しいですか。
- 複式学習の進め方は分かりますか。
- ガイドの進め方は分かりますか。
- 算数の学習で困ることは何ですか。

<技能面> (3年生)

- かけ算 100マス計算 ----- (乗法九九の習熟)
- $5 \times 4 = 5 \times 3 +$ ----- (乗数の変化で積が被乗数の数だけ変化する)
- $8 \times 7 = 8 \times 8 -$ -----
- $6 \times 8 =$ $\times 6$ ----- (交換法則)
- $3 \times (2 \times 4) = (3 \times) \times 4$ ----- (結合法則)
- 8×10 ----- (10の乗法)
- 10×6 -----
- 20×3 ----- (何十、何百の乗法)
- 70×7 -----
- 300×4 -----
- 600×9 -----
- じゅんじょをかえて計算してみましょう。 ----- (3口の計算の工夫)
- $6 \times 2 \times 2$ -----
- $7 \times 5 \times 2$ -----
- $2 \times 6 \times 5$ -----
- 21×3 ----- (未習事項)

<技能面> (4年生)

- かけ算 100マス計算 ----- (乗法九九の習熟)
- $27 \div 9$ ----- (1位数の除法の計算)
- $54 \div 7$ -----
- $16 \div 5$ -----
- $80 \div 2$ -----
- $600 \div 3$ -----
- $29 \div 3 = 8$ あまり 5 ----- (除数と余りの関係, 答えの確かめ)
- $40 \div 7 = 5$ あまり 5 -----
- $14 \div 2$ ----- (除法の筆算)
- $29 \div 8$ -----
- $57 \div 8$ -----
- クッキーが23こあります。 ----- (あまりのある除法の立式と理解)
- 5人で同じように分けると、1人分は何こになるのでしょうか。あまりは何こでしょうか。
- 69まいの色紙を3人で同じように分けます。 ----- (未習事項)
- 1人分は何まいになるのでしょうか。

* 調査結果と考察については、省略する。

(5) 指導上の留意点

1. 基礎基本の確実な定着

(3年)
この単元の基礎・基本は、
(1) 計算の原理や法則に気付き、筆算のよさを味わう
(2) 「十進位取り記数法」部分積の意味を考えたり表記したり部分積をたす場面で重要
(3) 「かけ算九九」筆算では、繰り返し用いられるため、正しく唱えることが重要
(4) 「計算の決まり」筆算をつくり出していくアイデア、すなわち数学的な見方・考え方(ここでは分配法則が中心)が重要である。

(4年)
この単元の基礎・基本とは、
(1) 被除数が乗法九九の積を越えた除法の筆算形式を確実に身に付ける。
(2) 除法の筆算形式の仕方について考える。
(3) 等分除と包含除の2種類のわり算を理解することである。

ここで扱う基礎・基本の確実な定着とは、筆算の形式的な指導や計算の習熟だけでなく、計算の仕組みを理解し、誤りや図形を構成する要素や算数における大きなこと、四則の計算の答えの見当をつけて、さまたげをなくし、必要に応じて、個別指導を行う必要がある。また、一人一人の誤答に基づいて、速やかに対応し、適切な指導を行い、基礎・基本の習熟を図らなければならない。そこで、児童の実態を正確に把握し、単元に入る前に個別指導を行い、つまづきを解消しておくことが大事である。

子どもたちは、計算の答えが合っていれば、「かけ算ができる」「わり算ができる」と思い込んでしまふことが多い。この単元における基礎・基本とは、まず、かけ算・わり算の仕組みを十分に理解し、その上で計算の仕組を理解できるものと考える。そこで、言葉で説明したり、図を使って説明をしたりする場や機会を多くとる。そして、筆算形式を学習した後で、もう一度、図を使って振り返る時間を設定する。学習を振り返ったり、既習の計算に帰着して考えたりすることができるよう、掲示物等の工夫をする。

2. 学習過程の工夫

複式学習を行う上で、大切なことは、子ども達自身で十分に学習を進めていけるかどうかということにある。そこで、各時間での学習の流れを味わせ、子ども達自身で学習を進めたい。学習の手引きをもとに、教師の進めさせ、問題を解決できる喜びを味わわせようとする。学習の指示と進行をするように、学習計画を書き込んだ指示カードを与え、ガイドはこれをもとに学習の指示と進行をするようにさせる。また、間接指導時につまづいた際、自力解決できるように既習の学習を想起させるための掲示（ヒントコーナー）を充実させておきたい。

3. 個に応じた指導

児童の個性は多様であり、数を念頭操作するだけで問題解決し、満足してしまう児童（A）もいれば、操作的な活動などで十分検討しなければ納得しない児童（B）もいる。

そこで、児童一人一人の個性に応じた指導、助言ができるよう、一人一人についての乗法九九の習熟、乗法の交換法則、乗法の式の読み取り、積と乗数の変化の法則の理解度などについて十分把握しておく。そして、児童Aに対しては、答えが本当に正しいかどうかを自分の言葉で書かせたり話させたりして十分説明させるよう指導すると共に、同種の問題を与え、一般性のある説明ができるかどうか検討させる。また、児童Bに対しては、具体物を使った操作も含め、できるだけ操作的な活動をするよう誘うがし、どうしたらより能率よく処理できるかを考えさせるようにする。

問題を解決する段階で、児童は様々な方法で問題解決を行いそれを表現する。できるだけ、児童の考えを活用していきたい。

いろいろな方法でものを分けようとする子どもたちの多様な活動を支援するために、教師は個別指導に当たり、子ども一人一人が自分なりの考えをもてるようにし操作活動などを通して等しく分けることの意味をとらえられるようにする。

自分なりの方法で問題解決に意欲的に取り組ませ、問題解決の実現状況に応じて個別指導をすることにより成就感・満足感をもつことができるようにしたい。

4. 取り入れる算数的活動

(3年)

($2 \cdot 3$ 位数) \times (1 位数)のこの単元では、簡単にかかけ算できない計算をなんとかして、工夫して答えを求める必要がある。

この単元の算数的活動は、作業的な活動が主になる。例えば、「実物を用いて数えたり」「絵や図などにかいて、答えの求め方を考えたり」「式を分けて、計算したり」「言葉で、やり方や式を説明したり」する。これらの、さまざまな表現方法を用いて、計算の意味や、答えの求め方を生み出す。筆算を生み出す目的をもった活動として「たし算やひき算で習った筆算がかかけ算にもあるのだろうか」「筆算があれば早くできるのに」と言う考えを大事に活動をさせたい。

(4年)

この単元では、筆算の仕方、答えの求める操作手順を形式的に教え込むのではなく、子ども達に計算の仕方や筆算の方法を自由に考えさせたい。

したがって、「具体物や半具体物を用いた操作活動」「言葉や絵で自分の考えを表現していく探究的な活動」を意識し、ブロックやテープ図などを用いる。

子ども達は、問題に直面すると、今までの経験や知識を活用して、何とかして自分で解決しようと試みる。しかし、解決できない子どもには、具体的手だてが必要である。

そこで、ブロックの操作、絵や説明を書く式(たし算・ひき算・かけ算・わり算)という順に、進めることにより、どの子も自分の力で問題を解決できたという喜びを味わうことができる。

例えば、計算の仕方が分からない児童にとって、操作的な活動は解決の重要な手段となる。また、問題から直感的に答えを求めることができる児童にとっても、操作的な活動は、答えが正しいかどうかを検討する手がかりとなり、大変重要である。そこで、具体物、絵、図、数直線などを用いた操作的な活動ができるだけしやすい教材を用いるようにする。

5. 評価の工夫

(3年)

この単元における評価の重点を、次の4点に置くことにした。

(4年)

この単元における評価の重点を、次の4点に置くことにした。

問題を理解し、かけ算で立式できたかどうかを観察する。
 既習の学習を生かして、見当を付けることができたかどうかを観察する。
 計算の仕方を見つげようと、自力解決をしているかどうかを見る。机間指導して、ノートをチェックする。
 計算の仕方が理解できたかどうかを評価する。

既習事項を用いて考えることができたかどうかを評価する。
 自分で考えた計算の方法を分かりやすく説明する。
 自分で考えた方法と友達の方法を比べ、違うところや似ているところを見つける。
 2～3位数をわるときは上位の方からわっていくことに気付く。
 かけ算の意味を考え、かけ算九九を用いてわり算の計算の仕方を考えていたかを評価する。
 かけ算九九を用いて、わり算の答えの見つけ方を習得し、定着したかどうかを評価する。
 筆算のアルゴリズム<たてる><かける><ひく><おろす>ができていないかを評価する。

そこで、ノートに子どもが学習中に、解決の仕方を中心として、気付いたこと、疑問に感じたこと、どのように修正したかなどを記録させていく。
 そして、授業中に子どもの観察をして、その都度必要な学習相談をする。また、学習後にそれらを熟読し、分析して、良い点を誉め、励ましていく。また、多少の注文、感想などのコメントを付ける。
 数学的なアイデアや方法を示唆したり、助言したりして評価を加える。
 個別に評価を加え、指導にフィードバックする。また、ペーパーテストにより、理解の程度、筆算や計算の習熟度、活用状況を評価する。

3 題材の目標

(3年)

- (1) 乗法の筆算に関心を持ち、筆算の仕方を考えたり、筆算の手順をまとめたりする活動に意欲的に取り組もうとする。
 - (2) 乗法の筆算の仕方を考えたり、乗法の意味を被乗数が3位数の場合にまで拡張したりすることができる。
 - (3) 問題場面を図や式に表したり、乗法の筆算の仕方を説明したりすることができる。
 - (4) 2位数や3位数に、1位数をかける計算が乗法九九をもとにしていることが分かる。
 - (5) 乗法の分配法則や筆算の仕方が分かり筆算で正しく計算することができる。
- 【関】 乗法の筆算のよさが分かり、進んで用いようとする。
 【考】 既習の乗法や計算のきまりを活用して(2・3位数)×(1位数)の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を説明したりできる。
 【表】 (2・3位数)×(1位数)の計算を筆算でできる。
 【知】 (2・3位数)×(1位数)の筆算の仕方が分かる。

(4年)

- (1) 除数が1位数で商が2位数以上になる場合の除法に関心を持ち、筆算形式の計算の仕方を考える活動に意欲的に取り組もうとする。
 - (2) 商が2位数以上になる場合の(2・3位数)÷(1位数)の意味と筆算の仕方を考え、絵や図、乗法九九などを用いた自分なりの解決方法で説明することができる。
 - (3) (2・3位数)÷(1位数)の筆算の仕方が分かり、筆算で正しく計算することができる。
 - (4) (2・3位数)÷(1位数)の簡単な暗算の仕方が分かり、正しく計算することができる。
- 【関】 除法の筆算形式のよさに気付き、進んで筆算しようとする。
 【考】 既習の(2位数)÷(1位数)の計算の仕方を基にして、(2・3位数)÷(1位数)の計算の仕方を考えることができる。
 また、筆算の仕方や余りの処理の仕方を、除法の具体的な場面と結びつけながら説明できる。
 【表】 (2・3位数)÷(1位数)の筆算や、答えの確かめができる。
 【知】 (2・3位数)÷(1位数)の筆算の仕方や、答えの確かめの仕方が分かる。

(人権同和教育上の視点)

それぞれの考えを相互に関連付け、それぞれのよさを認め合う。
 友だちの意見をしっかりと聞き、自分の考えと比べながら学習を進めていくことができる。

5 指導と評価の計画

小題材	主な学習活動(3年) 評価の観点
1 (2けた)×(1けた)の計算(2.5) 練習問題(0.5)	6 / 30 (月) 5校時 21×3の計算の仕方について発表し合い、筆算の手順をまとめる。 【考】 既習事項を活用して、21×3の計算の仕方を考えることができる。 【知】 筆算形式の仕組みが分かる。
	7 / 1 (火) 2校時 繰り上がりのある計算について話し合う。 【関】 筆算のよさに気付き、進んで用いようとする。 【考】 繰り上がった数の処理を、既習事項を使って説明できる。 【表】 繰り上がりのある(2位数)×(1位数)の筆算ができる。

	<p>7 / 4 (金) 4 校時 繰り上がりのある計算について話し合う。 【関】 筆算のよさに気付き、進んで用いようとする。 【表】 部分積同士の和でも、繰り上がる(2位数)×(1位数)の筆算ができる。</p>
2 (3けた) × (1けた) の計算(2)	<p>7 / 7 (月) 5 校時 本時 2 1 3 × 3 の計算の仕方を考え、まとめる。 2 1 3 × 3 の筆算の仕方を考え、手順をまとめる。 【関】 自分の考え方を発表したりよりよい考え方を進んで活用したりする。 【考】 (2位数) × (1位数) の計算の仕方を活用して、(3位数) × (1位数) の計算の仕方を考えることができる。 【表】 (3位数) × (1位数) の計算を筆算でできる。 【知】 (3位数) × (1位数) の筆算の仕方が分かる。</p>
	<p>7 / 8 (火) 2 校時 (3位数) × (1位数) のいろいろな計算をする。 【関】 筆算のよさに気付き、進んで用いようとする。 【表】 (3位数) × (1位数) で、繰り上がりのある計算が筆算でできる。 【知】 (3位数) × (1位数) で、繰り上がりのある筆算の仕方が分かる。</p>
3 暗算 / まとめ(1)	<p>7 / 11 (金) 2 校時 2 4 × 3 の暗算の仕方について話し合う。 【表】 積の見積もりの 4 × 70 を生かして考えることができる。 【知】 (2位数) × (1位数) の暗算の仕方が分かる。</p>
チャレンジ(0.5) 補充問題(0.5)	<p>7 / 14 (月) 3 校時 学習のまとめをする。 【関】 筆算のきまりをもとにして、進んで問題を作ろうとする。 筆算の仕組みや十進数のきまりをもとにすれば、念頭操作でも問題を解決できるおもしろさに気付き、進んで新しい問題を解こうとする。 問題作りや計算練習をする。</p>
発展・補充指導	

小題材	主な学習活動(4年) 評価の観点
1 商が2けたのわり算(3.5) 練習問題(0.5)	<p>6 / 19 (木) 5 校時 6 9 枚の色紙を3人で分ける方法を考え、話し合う。 【考】 既習の計算や図をもとに、自力で問題解決できる。 【表】 繰り下がりのない(2位数) ÷ (1位数) の計算ができる。 【知】 部分商を出し、それを加えるという計算の仕方が分かる。</p>
	<p>6 / 20 (金) 1 校時 繰り下がりのある 72 ÷ 3 の計算の仕方を考える。 【考】 既習の除法の計算の仕方を基にして、繰り下がりのある(2位数) ÷ (1位数) の計算の仕方を考えることができる。</p>
	<p>6 / 23 (月) 2 校時 繰り下がりのある 72 ÷ 3 の筆算の仕方を考え、手順をまとめる。 【関】 除法の筆算形式のよさに気付き、進んで筆算を用いようとする。 【考】 筆算の仕方を、除法の具体的場面と結びつけながら、筋道を立てて説明できる。</p>
	<p>6 / 23 (月) 5 校時 余りがある場合や商に0が立つ場合の除法の筆算について考え、まとめる。 【表】 (2位数) ÷ (1位数) の筆算ができる。</p>
1 (3けた) ÷ (1けた) の計算(4)	<p>6 / 30 (月) 2 校時 6 3 9 ÷ 3 の計算の仕方をまとめる。(商が3けた) 【考】 位ごとに分け、既習の学習を生かして考えることができる。 【知】 (3位数) ÷ (1位数) の計算の仕方が分かる。</p>
	<p>7 / 1 (火) 2 校時 5 3 6 ÷ 4 の筆算の仕方をまとめる。(繰り下がり) 【考】 筆算の仕方を具体的場面と結びつけながら、筋道立てて説明することができる。 【知】 (3位数) ÷ (1位数) の繰り下がりのある計算の仕方が分かる。</p>

	<p>7 / 4 (金) 4校時 $254 \div 3$ の筆算の仕方をまとめる。(商が2けた) 【表】 操作と筆算手順を結びつけて説明できる。 【知】 $(3 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数}) = (2 \text{ 位数})$ の筆算の仕方が分かる。</p>
	<p>7 / 7 (月) 5校時 本時 商に空位がある筆算仕方との簡単な $(2 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数})$ の暗算の仕方をまとめ、いろいろな問題を解く。 【関】 ・わり算を用いるよさに気付き、進んで用いようとする。 ・自分の考え方を発表したり、よりよい考え方を進んで活用したりする。 【考】 筆算の仕方を筋道立てて説明することができる。 【表】 操作と筆算手順を結びつけて説明できる。 【知】 商に0が立つ筆算の効率的な処理の方法が分かる。</p>
3 どんな計算になるかな(1)	<p>7 / 8 (火) 2校時 問題場面から数量の関係をとらえ、式に表す。 【考】 言葉や絵を手がかりにして、乗法や除法の演算決定ができる。</p>
まとめ チャレンジ(1)	<p>7 / 11 (金) 2校時 既習事項のまとめをし、練習問題に取り組む。 【関】 計算の必要性を感じながら、進んで解決しようとする。</p>
発展・補充指導	問題作りや計算練習をする。

6 本単元において用いたデジタルコンテンツ
 教育出版ホームページから「小学算教ミニプログラム」をダウンロード

教育テレビホームページから「わかる算数4年生」をダウンロード

大日本図書ホームページから「わり算(もぐらたたき)」をダウンロード

7 本時(3年 4 / 7, 4年 8 / 10)

(1) 目標

- | | |
|--|---|
| <p>(3年)</p> <p>(1) $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の計算に、$(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ で学習した位ごとに分けて計算する方法を適用できる。</p> <p>(2) $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の筆算の仕方が分かる。
 【関】 自分の考え方を発表したり、よりよい考え方を進んで活用したりする。
 【考】 既習の計算のしかたを活用して、$(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の計算の仕方を考えることができる。
 【表】 $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の計算を筆算でできる。
 【知】 $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の筆算の仕方が分かる。</p> | <p>(4年)</p> <p>(1) $(3 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数})$ の計算で、商に空位のあるものの筆算ができる。</p> <p>(2) 商と余りの確かめができる。</p> <p>(3) 簡単な $(2 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数})$ の暗算ができる。
 【関】 ・わり算を用いるよさに気付き、進んで用いようとする。
 ・自分の考え方を発表したり、よりよい考え方を進んで活用したりする。
 【考】 筆算の仕方を筋道立てて説明することができる。
 【表】 操作と筆算手順を結びつけて説明できる。
 【知】 商に0が立つ筆算の効率的な処理の方法が分かる。</p> |
|--|---|

(人権同和教育上の視点)
 友だちの意見をしっかりと聞き、自分の考えと比べながら学習を進めていくことができる。

(2) 実際 () 支援 () 評価方法 () 間接指導 ()

教師の支援 教師の支援と具体的な評価方法	教師の支援と具体的な評価方法	教師の位置	主な学習活動 (4/7時間)	主な学習活動 (8/10時間)	過程時間
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算の練習を前比較する。 問題がしつかりできたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算の練習を前比較する。 問題がしつかりできたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>一斉導入</p>	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 前時までの問題を解く。 21×3 13×7 46×7 学習課題を受け止める。 1 本213円のジュースをいくつ買いました。代金は、 $213 \times 3 = ?$ (1本の値段) (本数) (代金) 学習課題を作る。 かけられる数が3けたのか かけ算の計算の仕方を考えよう 方法や手順を考え、答えの予想をする。 	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 学習課題を受け止める。 420まいの色紙を3人で分けましようか。 $420 \div 3 = ?$ (全部の数) (人数) (1人分) 方法を予想する。 筆算でやろう 学習課題を考える。 0があるわり算の筆算の仕方を工夫してやろう。 	5分
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>個別指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> 予想したことをもとに調べる。 (1) 自分の考えで問題を解く。 (2) 説明できるように文章や図でまとめておく。 分かったことを発表し、確かめる。 学習のまとめをする。 	<ol style="list-style-type: none"> 予想したことをもとに調べる。 (1) 自分の考えで問題を解く。 (2) 説明できるように文章や図でまとめておく。 分かったことを発表し、確かめる。 学習のまとめをする。 	5分
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>一斉導入</p>	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 前時までの問題を解く。 21×3 13×7 46×7 学習課題を受け止める。 1 本213円のジュースをいくつ買いました。代金は、 $213 \times 3 = ?$ (1本の値段) (本数) (代金) 学習課題を作る。 かけられる数が3けたのか かけ算の計算の仕方を考えよう 方法や手順を考え、答えの予想をする。 	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 学習課題を受け止める。 420まいの色紙を3人で分けましようか。 $420 \div 3 = ?$ (全部の数) (人数) (1人分) 方法を予想する。 筆算でやろう 学習課題を考える。 0があるわり算の筆算の仕方を工夫してやろう。 	5分
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>個別指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> 予想したことをもとに調べる。 (1) 自分の考えで問題を解く。 (2) 説明できるように文章や図でまとめておく。 分かったことを発表し、確かめる。 学習のまとめをする。 	<ol style="list-style-type: none"> 予想したことをもとに調べる。 (1) 自分の考えで問題を解く。 (2) 説明できるように文章や図でまとめておく。 分かったことを発表し、確かめる。 学習のまとめをする。 	5分
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>一斉導入</p>	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 前時までの問題を解く。 21×3 13×7 46×7 学習課題を受け止める。 1 本213円のジュースをいくつ買いました。代金は、 $213 \times 3 = ?$ (1本の値段) (本数) (代金) 学習課題を作る。 かけられる数が3けたのか かけ算の計算の仕方を考えよう 方法や手順を考え、答えの予想をする。 	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 学習課題を受け止める。 420まいの色紙を3人で分けましようか。 $420 \div 3 = ?$ (全部の数) (人数) (1人分) 方法を予想する。 筆算でやろう 学習課題を考える。 0があるわり算の筆算の仕方を工夫してやろう。 	5分
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>個別指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> 予想したことをもとに調べる。 (1) 自分の考えで問題を解く。 (2) 説明できるように文章や図でまとめておく。 分かったことを発表し、確かめる。 学習のまとめをする。 	<ol style="list-style-type: none"> 予想したことをもとに調べる。 (1) 自分の考えで問題を解く。 (2) 説明できるように文章や図でまとめておく。 分かったことを発表し、確かめる。 学習のまとめをする。 	5分
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>一斉導入</p>	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 前時までの問題を解く。 21×3 13×7 46×7 学習課題を受け止める。 1 本213円のジュースをいくつ買いました。代金は、 $213 \times 3 = ?$ (1本の値段) (本数) (代金) 学習課題を作る。 かけられる数が3けたのか かけ算の計算の仕方を考えよう 方法や手順を考え、答えの予想をする。 	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 学習課題を受け止める。 420まいの色紙を3人で分けましようか。 $420 \div 3 = ?$ (全部の数) (人数) (1人分) 方法を予想する。 筆算でやろう 学習課題を考える。 0があるわり算の筆算の仕方を工夫してやろう。 	5分
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>個別指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> 予想したことをもとに調べる。 (1) 自分の考えで問題を解く。 (2) 説明できるように文章や図でまとめておく。 分かったことを発表し、確かめる。 学習のまとめをする。 	<ol style="list-style-type: none"> 予想したことをもとに調べる。 (1) 自分の考えで問題を解く。 (2) 説明できるように文章や図でまとめておく。 分かったことを発表し、確かめる。 学習のまとめをする。 	5分
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を提示し、場面をとらえ課題を板式で書く。 課題を正しく理解ができたか確認し、意欲をもたせる。 	<p>一斉導入</p>	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 前時までの問題を解く。 21×3 13×7 46×7 学習課題を受け止める。 1 本213円のジュースをいくつ買いました。代金は、 $213 \times 3 = ?$ (1本の値段) (本数) (代金) 学習課題を作る。 かけられる数が3けたのか かけ算の計算の仕方を考えよう 方法や手順を考え、答えの予想をする。 	<ol style="list-style-type: none"> かけ算の50マス計算をする。 学習課題を受け止める。 420まいの色紙を3人で分けましようか。 $420 \div 3 = ?$ (全部の数) (人数) (1人分) 方法を予想する。 筆算でやろう 学習課題を考える。 0があるわり算の筆算の仕方を工夫してやろう。 	5分